

助言スキル課題について

【相談の経緯】

あなたは巡回相談心理士として中学校に訪問しています。11月の訪問で、以下のAさん（中学1年生・女子生徒）について助言することが求められました。今回のケースでは、保護者と学校で話し合い医療機関を受診しています。保護者から特別支援教室について知りたいという希望があり、今後、コーディネーターも含めて面談を予定しています。

担任は、Aさんが特に困っている美術の授業の観察から、通常学級において実施可能な支援について助言を求めています。担任と予定が合わず、観察後に協議する時間はほとんどありませんでした。

そこで、担任に向けた助言レポートを作成することになりました。

【助言の内容】

担任からは、(1) Aさんの最近の変化はなぜ生じているのか、(2) Aさんの支援において、どのような長期及び短期の目標を設定したらよいのか、(3) 目標に向けて、授業においてどのように支援したらよいかの3点の質問があがっています。効果的な支援につながるようなレポートを800字以内で記述してください。

なお、上記3点を記述する際、(1) 困難さの背景、(2) 長期及び短期目標案、(3) 支援の手立て、と見出しを記してください。不足している情報がある場合は、今回の課題のケースに基づいて、各自で想像してください。

【学級担任(教職18年目の男性教諭・国語科担当)から提出された相談シート】

(担任として気になること)

- 入学後は何ともなかったが、10月頃から授業中にボーっとすることがあり、個別に声をかけることが多くなってきた。
- 保護者によると9月後半から朝、起きられない日が多くなってきている。
- 保護者から自閉スペクトラム症の疑いと聞いているが、大人しいものの友人の輪には自ら入っており、他者の意見に合わせる事ができている。

(学校での様子)

- 行動全体がゆっくりであり、ノートの板書や指先を使った作業には時間がかかる。
- 会話の中で難しい言葉を使うことが多い。
- 女子生徒の輪の中に進んで入っていくが、グループを引っ張っていくというよりグループの周辺にいる。
- 給食は入学時から残すことが多い。理由を尋ねたところ、好き嫌いによるものとアニメキャラクターの姿に憧れてダイエットをしているとのことであった。
- 身体計測の結果、身長156cm、体重42kgであった。

(2枚目に相談シートの続きがあります)

(保護者との面談)

- 小学校のときも時々、朝に頭が痛いなどの理由で欠席することがあった。
- 小学校の先生からは行動がゆっくりで作業に時間がかかるが、時間をとれば完成させられると言われていた。
- 完璧主義なところがあり、外出の際に服装や髪型が思い通りにならないと外出できない。
- 小学校の給食は好き嫌いが多いので、配膳のときに食べられるものを調整していた。
- 小学校高学年くらいから「友だちに合わせるのが大変」と言い、休日は一人で過ごすことが多い。
- 9月後半から朝起きられない日が出てきたことに加えて、昔から好きだった漫画も読まなくなり、食欲もないと言い部屋にこもることが多くなってきた。
- 中学校の学習については、「私は美術の感性を持ち合わせていない」と言っている。
- 両親への反抗が目立ってきて、注意をすると物を投げて、暴言を叫ぶ。親が何も言わないと自分の部屋にこもって、その後に寝てしまう。
- クリニックにて、自閉スペクトラム症の疑いがあるとされている。
- WISC-Vの結果：FSIQ 124、言語理解 126、視空間 130、流動性推理 121、ワーキングメモリー 118、処理速度 100

【行動観察結果】

美術において、次週の粘土の彫塑のためのデッサンを描く授業を観察した。授業の展開は、(1)導入において本時の目標を確認する場面、(2)彫塑の対象となる果物を観察する場面、(3)果物をデッサンする場面で構成されていた。以下に観察において特徴的であったことを記す。

(1) 本時の目標を確認する場面

始業前に巡回相談心理士が美術室に入ると、前の時間に授業のあった他学年が片付けを終えたところであった。美術室では、前の学年が使用した木材や接着剤、絵の具の匂いが漂っている。美術室の前方には、木材や画材、絵の具などが無造作に置かれており、後方には制作途中の作品が所狭しと並んでいる。そこへ、A が数名の女子生徒の後をついてくるように入ってくる。A は体操着の袖で鼻を覆いながら自分の席につく。

間もなくして、担当教諭が来て授業が始まった。担当教諭は紙袋からリンゴやバナナ、オレンジを取り出して、果物ナイフで切り、中身を見せた。生徒と果物の中身の形や色、質感などを確認した後に、「果物の中身が変わっているとしたら、どんな果物だろう?」と生徒に尋ねる。A の廊下側の机とは反対の窓側の机の生徒はすぐに、「みかんをむいて、スイカだったらいいな」「俺はメロン」「青リンゴを切ったら、ナシになってる」「青リンゴとナシは見た目も似てるじゃん」などと盛り上がっている。多くの生徒が笑っているなか、A は下を向いたままだ。

担当教諭は、「前回伝えたように、粘土の彫塑のためにデッサンをワークシートに描きます」と伝え、本時の目標 不思議な果物を想像してデッサンしようと板書し、ワークシートを配布した。目標は、ワークシートに記入されている。

(2) 果物を観察する場面

担当教諭は、次に粘土で造形する果物を決めて、その果物を観察する時間をとった。注意深く観察するためにも、実物の果物を複数用意し、各グループの机に置いていく。窓側の生徒たちは、果物を丸かじりする動作や動物の真似をしてふざけ合うなど、笑い声が響いている。担当教諭は、淡々と果物を置いていく。

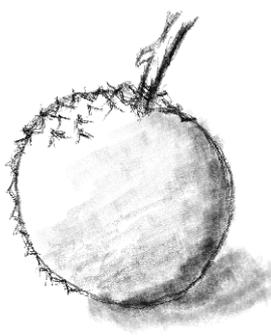
果物を観察する際、リンゴやバナナなど教師が用意したものに限らず、タブレット端末を使って果物を検索し、観察してもよいことを指示した。A と同じ机の生徒が果物に触るなか、A はタブレットを操作する。検索のトップページを開き、しばらく遠くを見つめている。他の生徒は「何にしよう…」「この前、この味のアイスが出た」など話し合いながら果物を観察しているが、A はたまにキョロキョロと周りを見渡ししながら、タブレットに注目している。

しばらくして、検索用語に“ライチ”と入力し、画像を開いた。同じグループの生徒が A にデッサンの対象について尋ねると、A は体をビクツとさせて「う、ライチにしよう」と応答し、「な、なにに決めました？」と質問を返していた。話し方は語頭音が連続して吃るような話し方で、早口であったものの、相手の生徒は聞き取って応答していた。その後、他生徒は観察しながらデッサンを始めていたものの、A はずっとタブレットをながめていた。

(3) 果物をデッサンする場面

果物の観察の指示から 7～8 分ほどして、「デッサンを始めてない人は、そろそろ始めてね」と担当教諭の声が響く。A はキョロキョロと周りを見渡し、急いでデッサン用の鉛筆を持ち、ワークシートに枝から描き始めようとする。描いては消し、描いては消しを繰り返すが、なかなか輪郭が描かれず、ワークシートに鉛筆のあとが残り黒くなっていく。A が深いため息をつく、担当教諭がやってきて「ライチにしたんだね。食感がいいよね。ライチジュース好きだな」と声をかけ、隣で指導用のワークシートの枠に大きな円を描いた。「最初は全体の輪郭を描いてから、細かいところを加えていくといいよ」と指導した。

A は先程まで肩に力が入っていたが、すっと力が抜けていく。A は全体に輪郭を描いた後に、細かな線でライチの皮の突起を描いていく。美術室には静かな時間が流れる。鉛筆が紙を擦る音が、カリカリと小さく響く。皆が無心になり、果物の輪郭をなぞり、影をつけ、少しずつ形を整えていく。やがて、あちらこちらから深いため息と同時に「できた」と安堵の声が聞こえてくる。担当教諭は、「皆、よく集中してたね。そろそろ時間だから、他の生徒のデッサンを観た感想と今日の感想をまとめて提出してね」と伝えた。最終的に、ほとんどの生徒が断面のある果物をデッサンしていた。A はデッサンを観察したうえで、右の図のように、感想を書いた。A の前には、消しかすが山のようにならされていた。

<p><デッサン></p> 	<p><他の生徒のデッサンを観た感想></p> <p>バナナの影が濃いと 思いました。</p> <p><デッサンの感想></p> <p>先生に教えていただき、 最初に全体の輪 かくを描きました。</p>
--	---

(備考) 仮想事例提供者が作成した、Aのワークシート